

大分県の民俗芸能 (二)

染 矢 多 喜 男

5. 本城楽 日田郡栄村本城

宮の本に鎮座する金凝神社の10月20・21日(昔は旧暦9月18・19日)の秋祭に奉納される。

演技者と装束

コモラシ(6名) テンガン・上衣(袖口を紐でくくる。尻までの長さ)・袴(柄物)・黒足袋・草履。拍子木(色紙付)。
杖(20名) 白鉢巻(金紙製の違い鷹の羽紋を貼る)・上衣(縞の単衣、尻までの長さ)・胸当(紺地に白く波頭文と違い鷹の羽紋を染め出す)・タツツケ(縞)・テッコ(手甲)・黒足袋・草履。襷は赤と桃の2色があり、隔年にウチホとウケホを区別する。襷の結び目に御幣をつける。赤襷は白と赤、桃襷は白と青の幣である。3役(ハナ・ナカ・アトのオサエ)は白の代りに金銀の幣である。両端に色房をつけた一尋の杖。房の色は各自の好みによる。杖には好みの様様に金紙を貼る。
面カブリ(5名) 天狗・大黒・蛭子・福祿寿・毘沙門天?である。面・上衣(舞衣様の大口広袖、背に違い鷹の羽紋)・緋袴・黒足袋・下駄(昔は太緒の草履)。瓢箪を赤布で肩から下げる。天狗は幣、大黒は打手の小槌(片面に大黒、他面に違い鷹の羽紋)・蛭子は拍子木と斗扇(軍配) 福祿寿は銅鉾子、毘沙門は小幣を持つ。天狗を除いた4名は小幣を後首に挿す。
笛(4名) 紋付・袴(股袴)・黒足袋・下駄。横笛。
太鼓(6名) 服装は杖に全じ。交互に2名宛締太鼓を青竹で叩く。撥には金紙を模様貼りし、両端に色紙房をつける。

午後3時頃、仮宮下の道路に勢揃いして、三百米ほど離れた神社に神輿を迎えに行く。天狗が先導し、1列縦隊の杖が続く。杖はハナオサエ・2番・3番…ナカオサエ…アトオサエの順に並ぶ。笛・太鼓・コモラシが杖の後に続く。大黒が楽の指揮をし、蛭子が拍子木で鎮めたり注意をしたりして補助をする。大黒・蛭子・福祿寿・毘沙門天などは適宜に位置する。行進中は「トントコトントコトントン…」とハヤシはミチガクを奏し、全員が「ソー」と掛声を入れる。神社の五〇米ほど手前で、ハナオサエがシメオロシ（ホンズエを3回打って構える）をしてから、楽に合せて杖がミチガクを使う。ミチガクの笛と杖はツキダシ・ケンカ・カグメ・ウケの5番がある。大黒が小槌を振り、太鼓が「ドコドコ…」と打切る（以下打切りは全じ要領である）。玉垣の向うの入口から入る時にイリハを使う。この時もシメオロシをする。次にミヤメグリを使いながら馬場を一巡する。ミヤメグリの時はハヤシも奏しながら後について廻る。終るとニワを立てる。大黒の指図に従って、杖は向い合って2列横隊を作り、杖を身体の前で横に水平にして間隔をとる。杖尺をとるといふ。整列が終ると、大黒が米と塩を撒きながら「袂い給え、浄め給え」と叫んで、杖の間を駆け抜ける。笛がニワのシズメを吹く。面カブリ全員が幣を振り廻して駆け抜ける。杖を地に交叉して構え、ニワガクを使う。同じ動作を3回終ると、太鼓が「トントントンントン」と激しくアゲを打つ。杖は全員馬場の一隅に退く。ハナズエはハナオサエから順次各組毎に使う。サシ・カグメ・スナハライ・マワシ・イキアイ・シバヒキなどの番がある。面カブリが迎えに来て一組宛馬場の中央に連れ出す。杖は2名が並んで出る。面カブリに頭を下げ、反対側に3歩宛歩いて向い合い、挨拶して杖を使う。面カブリは「エイエイヤーツ」と掛声を掛けたり、ひやかし半分の激励の言葉を掛ける。終ると囃して送り、次の組を迎える。各組の杖の後にミダレズエを使う。全組が出て、各組の得手の杖を使う。ハナズエが終るとカミウツシの神事が行なわれる。神輿を神殿に上げ、神官が祝詞を奏上し、奏楽裡に神体を神輿に還す。笛・太鼓・鉦は神殿と拜殿をつなぐ階段で奏する。神輿が発発する時に、鳥居から道路までデハを使う。神輿は午後4時頃出発して仮宮に向う。仮宮に到着の時は神社と同様な順序で杖を使う。お上りの際も仮宮と神社で同じく杖を

使う。

沿革など

80年ほど前に九重町田の人を備って伝習したというが、明治15年頃であろうか。神輿に同年大阪の安土町片池角の鈴木源左衛門氏より購入の墨書がある。大正初期に悶着があつて栗宮部落は脱退し、以後は本城地区のみが維持している。

7才でコモラシになり、以後、太鼓（小学6年）↓杖（16才〜35才）↓笛や面カブリ↓世話人と年令通過にしたがつて役を勤める。戦前はカド青年（全員が義務的に）であつたので、楽に出なければ祭の時に神社へは行けなかつた。戦後は青年の離村が多く、杖は中学生が主体となり演技の型もすたれて来た。練習は10月に入ると始めた。世話人が指図をする。世話人は各隣保班毎に1名で計8名いる。昔は夜カガリビを焚いて練習した。区からの補助費の外に、各戸から米を寄付してもらつた。米を1升出してくれた家は3戸位しかなかったが、今は殆んど1升出してくれる。夜食にムスビを出した。昔は3日に1回位であつたが、今は毎日出さなければ出場しない。出場者には足袋銭を出して来た。

杖などの衣装や道具類は全部区有で、公民館の倉庫に保管している。衣装は戦後に新調したものを合せると13組分位であるが、戦前のものの方が布地が良くしゃんとしているので好まれる。

夜は仮宮に隣接する公民館で芝居がある。観覧席は広場に仮設する。前日に本城地区の人が出て杭打ちをして棧敷を作る。棧敷は不公平にならないようにクジで定めて交代する。昔は沢山のブローカーが芝居を持ち込んだが、最近はい川の芸能社だけになっている。

6 千束楽 南海部郡宇目町千束

鷲野尾神社の9月25・26日（昔は旧暦8月25・26日）の祭に奉納される。当日は楽（千束）の外に獅子（重岡・酒利）ハゲマ（塩見園）が出る。数年前までは杖（河尻）も出ていたが絶えた。22日頃、千束・伏野・豊藤3部落の神社総代と区長の2

名と千束部落からはテガシラが加わり、御神幸のテワリを合議して決める。マトイ（鷲野尾神社御供と記した旗）1名・露払
い1名・神輿担ぎ8名・高張2名・賽銭箱2名・吹流し5名・御弓2名・若党（刀持ち）1名・ダイガサ2名・馬引き1名・
薙刀と鉄砲5〜6名・御供太鼓担ぎ2名・同太鼓打ち1名・御供笛1名などである。当日は鷲野尾神社に集合し・楽・獅子・
ハグマ・神主・神輿・供廻りの順序で1軒ほど離れた八匹原まで神幸する。戦後は重岡のヤハシ神社の神輿と合流するよう
になった。

演技者と装束

太鼓打ち(10名)。女着物・女帯・黒の手甲と脚絆・白足袋・紙緒草履を履く。赤の鉢巻は両方に角を出す。白襷は結び残
りを後に長く垂らす。腰板を紐で結ぶ。腰板には色紙製のムカデ(小さく百足の足のような切目を入れたもの)を貼ってある。
腰板に1間半位の旗竿を挿す。旗竿の尖端にゴヒーを挿す。尖端部に麦稈を針金(昔はカズラ)で巻きつけ(ホテという)て
ある。ホテの下縁に5色の紙房を貼る。ホテには花を挿す。花は竹ヒゴに紙製のムカデを貼り、短冊やサガリを結んで作る。
カシラ太鼓は一一〇本、普通の太鼓は70〜80本位挿す。ホテの下部に針金が出ており、旗を付けるようになってる。旗は白・
燕脂・茶・赤色などの綿布に、「至誠満腔裏」「五穀豊穰」「至誠通神」などと墨書してある。氏子が願を掛けて奉納したも
のである。太鼓は首の所の紐は旗竿に結び、腰の紐は後で結ぶ。ブチ(撥)は2本で共に白の紙房を付ける。普通太鼓のブチ
の紙房は色紙を混えているが、昔はカシラ太鼓と同様に白であった。中学生と25才位の青年の役である。

鉦打ち(4名)。浴衣に帯を締め、赤鉢巻・襷・手甲(赤)・紙緒草履を履く。鉢巻は太鼓打ちと同じように角を出す。
襷は2色の布で、結び残りを後に長く垂らす。ブチ(槌)は5色の紙房をつけてある。小学生の役である。

道化(4名)。白衣に袴・風呂敷で頬冠りをし、白足袋・紙緒草履を履く。男女各2名ずつで、男は男面を付けレンギを、
女は女面に鉦である。テガシラ組の役である。テガシラ組は太鼓打ちをアガった35才位までの人をいう。

笛(3名)。拍子木(1名)。紋付・袴・白足袋・紙緒草履。テガシラ組の役である。

演技の大意

当日は鷲野尾神社の境内に集合する。昔は若者頭が指図をしていたが、今は区長や神社総代がしている。テガシラ組が先導して適当な円陣を作る。大太鼓が鉦打ち・道化を後に従え、大太鼓の間に適宜に普通の太鼓が単独で入る。御下りの日は神社と八匹原の御旅所、御帰りに御旅所・小学校・神社でそれぞれ楽をヒトワタリ打つ。楽は9番ある。1、カンカン。2、ミロガタ。3、テンガタ。4、テイテイ。5、小スリバチ。6、大スリバチ。7、ツチゴザ。8、テイツツ。9、トナリである。ヒトワタリに30〜40分かかる。テイツツはミチガクとして奏する。トナリが最も賑かである。各番を始める時は、大太鼓の向い合った同志が所作をしながら円陣の中央で交叉し、相手と位置を交替する。シャグ（キルともいう）という。シャグが終れば、笛がその番の笛を前奏してから番に入る。番の演技を短伸するのは拍子木の合図による。各番のヒョウシや太鼓・鉦・道化の足と手の動作は異なる。各番の足は太鼓・鉦・道化とも同じであるが、手振りは違う。

沿革など

楽の起源を示す記録は残っていないが、大原の富尾神社の楽を習ったものという。富尾神社の楽については、安永5年に神主の舎弟宮脇高満の記した「御楽奉造立記文巻」がある。これによれば、森竹吉郎左衛門が大願成就の礼として安政5年に楽を始めたという。大原から何時伝わったかは不明である。中津留にも同じ楽があるが、これは千束から伝えたものである。大原の楽が廃絶している今日では、千束の楽が古い姿を伝えているといえよう。

祭の7日（昔は10日）前頃からナラシ（練習）をした。神社でしたり、庭の広い所を借りて廻った。夜の9時頃から12時頃までした。昔はうまくできないと、ブチで叩かれたりして厳しく鍛えられた。チャ（小夜食）として出されたチソメシ（梅干漬の紫蘇を御飯にマメシた握飯）の味は忘れないという。22日頃はハナツクリといって祭の準備をする。各戸から1名ずつ出て、花作りや神社の掃除・鳥居の縄打ちなどをし、ウチアゲ（総練習）もした。

一、抑御楽と申たてまつるは、其昔天照大神天のいわとにこもり給しとき、諸神たちうれへ給て神事を任りしい路い路のわさおきを成給、このとき天のうすめの命神楽をそうしまひたてまつる。皇大神諸神たちのかみのり奉る神徳をかんしたまい、岩戸をひらきたまひ見そなわし、かくて日月共に光を六合のうちにてらしたもふ。是祭政の一大事にして教を萬世にたれたもふ。御かくと申奉るはこの時より始りぬとこそ聞伝奉り侍りぬ。掛久毛恐美奉るいわとの先列マツニまかせ、諸社の御祭ニ造立奉り神意をいさめ奉る。敬而おそれみ尊み奉らざらん哉。時に安永五酉申年にあたりて森竹吉良左衛門大願の意味ありて当社広前にもふて、つゝしんでたゝることを申上奉る。事のよしは我楽事神よのいふうを恐みかしこみ奉願意趣、本居之神靈かんのふましゝあわれみきこしめしたまゑと、かん□をならし三拝し奉り、此度神明の神徳をもつて大願成就シ給ハかく造立し末代祭庭のきしぎとなし、尊神のいわひまし奉らんとちかひ奉り、神前を下向し侍りぬ。吉良左衛門一心天蓮にかなひてや三日に当りぬる夜に、夢中に御告ましゝすなり。海か心清浄事天道正理ニひとしく。大望願の躰がく打よとたくしたもふ。難有もうて拝礼し奉りぬ。神教のまゝ大願成就し子孫繁栄の恵をなしたもふ。時の村君宮脇長左衛門江かくと物かたりし侍りぬれハ、当宮の神慮を蒙りし人多しといゑとも、此度の神慮おそれおゝき事に侍る哉。我等をはしめ諸人たちをあつめ御楽を造立し、ともに国家繁栄五穀成就子孫長久の神慮をおそれみあおき奉らんと尊祭し奉る而已。

仍而一心之願主森竹吉良左衛門謹而御楽奉造記文卷如件。

安永五丙申年十一月十五日

役当 宮脇 長左衛門

宮脇 伊左衛門

森 竹 勘兵衛

宮脇 清兵衛

佐藤 幸吉
戸羽 勘之丞
戸高 勘右衛門
戸高 軍左衛門
戸高 善之助
高次 新四郎
戸高 与右衛門
戸高伊三右衛門
戸高 為次郎
森竹 市之丞
森竹 梅次郎
森竹 要吉
森竹 友平次
森竹 幸次郎
宮脇 源五郎
戸高 伊勢次
甲斐 惣八郎
高次 栄左衛門
高次 久馬次郎

右之条々、神代の遺風恐美尊当宮神靈いさそたてまつる御楽師人数奉記者也。

御楽師伝

富尾宮神主舎弟

友右兵衛藤原高満

全 姓 藤原高嘉

敬而一卷之拜書ス。

7 花棒 南海部郡蒲江町葛原浦

葛原浦に鎮座する天満宮の旧3月15日の祭の奉納行事である。

演技者と装束

サキオドリ(2名) 赤と白の花笠・長袖・赤の股袴・赤襷・足袋・草履。

獅子オコシ(4名) シャ(茶色)・上衣(尻までの長さで長袖)・白パッチ・紫襷・足袋・草履。軍配・鈴。

太鼓打ち(4名) シャ(白色)・上衣(長袖)・パッチ・襷(水色)・足袋・草履。撥(色房付き)。

棒打ち(4名) 鉢巻・上衣(長袖)・タツツケ袴・紫襷・足袋・草履。色房の付いた小長刀、刃は金属製。

獅子(4名) 獅子頭は張子製。

行事の概要

天満社前に整列し、海岸にある小学校校庭まで約五〇〇米を神幸する。防潮堤ができるまでは浜を廻っていたのでかなり時間要した。行列の順序は、先導(神社総代)・塩水役・大麻・社名旗(2名)・猿田彦・日月錦旗・五色旗・四神旗(鉾)・柵台・獅子・太鼓(胴長)・棒打ち(2名)・金幣・白幣・梅枝・御供物・御幣振り・神輿・神職・御供(神社総代や部落幹部)であ

る。塩水役は昔は潮を手下げ桶に持っていたが、今は皿に入れた塩を撒く。

ヒー(幣)振りが「チョーサイ」と掛声をかけると、笛が「オタチの笛」を吹く。ヒー振りと神輿担ぎが「チョーサイ、チョーサイ」と叫びながら、神社の前を3回往きつ戻りつする。この間、太鼓は「オタチの太鼓」をドンドンドンと叩く。控えの一名は叩く所作をして合せる。獅子は八つ足を踏み、3回往きつ戻りつして、頭をキーツと後へ廻す。ヒー振りが「センサイラ」と声を掛けると、笛は「オサガリの笛」、太鼓も「オサガリの太鼓」を打つ。お下りの途中で行列が止まると、ヒー振りは舞を舞い、獅子オコシが軍配と鈴で獅子とともに舞い、棒打ちも踊っていたというが、現在は忘れられている。

御旅所には、仮の神殿と組立式の神楽殿が仮設される。神楽殿は3間に2間くらいである。上部のみ枝を残した竹を立て、上部に幣を付け注連縄を四方に張り、旗幟を数本立てる。御旅所に着くと、笛太鼓は「オタチのヒョウシ」を奏する。神輿は仮殿前で3回往きつ戻りつする。ヒー振りが「チョーサイ」と掛け声をかける。頃をみて笛が「吹き切り」を吹くと、神輿は停止する。太鼓と棒打ちは御旅所の前に横に整列する。棒打ちは2名が1組で、花棒を交叉させて地面へ置く。笛に合せて3歩出て退る。3回目に花棒を取り、旧位置に戻る。左側を向いて両足を開いて立ち、花棒を右から左へ頭上を越して前下へ廻す。3回繰返して、花棒を立てて地を突く。以上を3回繰返して、4回目の時に互いに斬り結ぶ。斬り合いを激しく3回続ける。左廻りして花棒を地に突き、斬り付けられたのを受け、はねられて廻る。相手の花棒をはね、右足を前に蹴り、最初の姿勢に戻る。この踊りを繰返す。太鼓打ちは2名が交互に叩く。控えの1名は叩く動作に合せて所作をする。

8. 杖 佐伯市下城

城村八幡宮の4月1日(昔は旧暦3月15日)の祭に、上城・下城両部落の人により奉納された。下城には神杖・花杖の2組、上城も2組あったが、上城は6年前から中絶している。以下主として下城の杖について記す。

杖（8名） 神杖、花杖各4名である。神杖はシャツ（袖口はボタン止めであった）を下に着て、襦袢・白い肌着（上衣）・白いタツツケを着る。肌着の袖口には縦に2本の流水紋、背には青の紋を大きく描いてある。上部に波頭紋・中央に赤の巴紋・下部に流水紋を描いた胸当をつける。草色の帯を左側で結び、左ないにして右側へ挿む。サイカ（白・栗・青の馬毛で作る）・白鉢巻・紺襷・黒脚絆・黒足袋・布緒（黒）草鞋を履く。花杖の服装は神杖と同じであるが、肌着の背の紋が若である。杖は花杖は5尺で5色の紙房であり、神杖は6尺で白房である。

太鼓打ち（2名） シャツを下に着て、襦袢、長袖の肌着（柄物）・タツツケ（膝下で紐で結ぶ。上部に水色の2本の流水紋を描く）を着て、胸当をつける。サイカ・白鉢巻・襷（紅白で結び残りを長く垂らす）・黒足袋・布緒（黒）草鞋を履く。

演技の概要

下城の杖は6番ある。神杖はカミツエ・ナカツエ・フキエ・サガリフ、花杖はヤマオロシ・ナカツエである。全部の演技に30分位を要する。上城の杖はシンリキ・ナカツエ・カザグルマ・ガンリキ・コガラス・トヤマキ・ナナツウチの7番である。以上の中、ヨタミテがあるのはカミツエ、シンリキ、ナカツエの3番である。次にカミツエの概要とヨミタテを記す。

八幡社から小学校まで約2料を神幸する。その間部落の切れ目で2〜3回オネリをする。御旅所では神前に2列縦隊に並ぶ神杖が前列である。先ずニワフミがある。拍子木と太鼓が「カチ・ドン・カチ・ドン（次第に早く）カチ・ドン」と打つ。笛と太鼓が「ヒューリヒュー・ボンボンボン・ヒューリヒューリヒューリヒューリ・ボンボンボン」とニワフミを奏する。神杖の組は両足を踏張って、杖を右脇に入れ左手は腰に張る。花杖の組は右手に杖を立て、左手は腰に張る。神杖は上体を反らしながら杖を上げ、左手で下をとり、廻しながら左手で上をとり、左に90度廻る。膝を張り左に杖を突出した姿勢をとる「エイハ」。右手を右に出しながら両手を拡げて杖を持つ「エイハ」。180度右へ廻って両膝を張る。同じ動作を左・右と繰返す（そのつど「エイハ」の掛声をかけるが、最後は「エイ」）。右足を前に1歩踏み、左足を上げて小さ

く跳ぶ。左・右と同じ動作をする。右足を踏み「エイ」、左足を踏み「ヤ」、右足を1歩前に出して引く「ハーン」。次に左・右と繰返す（そのつど「ハーン」の掛声）。笛・太鼓が「ヒューリヒュー・ドンドンドン・ヒューリヒューリヒューリヒューリヒューリ・ドンドンドン・ドンドン」と奏する。次に拍子木・太鼓が「カチ・ドン・カチ・ドン（次第に早く）…カチ・ドン」で終る。サガリフという。

〔上杖〕上体を反らしながら杖を上げ、左手で下をとり、杖を廻しながら左手で上をとり、左に90度廻る。膝を張り左に杖を突出した姿勢をとる「エイハ」。右手を右に出しながら両手を拡げて杖を持つ「エイハ」。180度右へ廻って逆の膝姿勢をとる。同じ動作を左・右と繰返す（そのつど「エイハ」の掛声をかけるが、最後は「エイ」）。正面を向きながら杖を立て、左手で上を持ち、左から右へ掃くように杖を廻す。右膝を立てて右手を下げて拝む。杖を前に廻して左肩にのせ、右手は下げたまま、「ヤー」で立つ。左手を添え杖を前に打ち込む。杖を引き右足を左へ下げ、右足を踏んで180度右へ廻り、杖を右手に持って廻転させ、立姿勢に戻る。「シート」で立つ。両足を踏張り、正面に向きながら杖を前下に出す。右足を軸にして90度右に廻りながら、杖を肩に担って前下に出す。同じ動作を4回して正面に戻る。両足を踏張り杖を前に立て、左手は腰に張る。左右両端の杖は「東西東西」と音声を上げながら3歩下り、共に左を向き膝を張り、右手で膝を右に突出した姿勢をとる。右前の杖が、

「抑々高天原日の若宮より天照皇太神の子孫彦火瓊々杵尊宣給え、天降りましますよりこのかた申承け奉る。今日此の社にて御神事の杖東西南北と使い分け始め奉る」とヨミタテをする。右後の杖が「そのいわれ聞きたくは」。左後の杖が「まったま」で、後の杖が立つ。180度右に向き、立姿勢にかわる。右前の杖が、

「筑紫の日向の小戸の檉原鎮まる二柱の神、豊国の道の後早吸灘の六柱の神、諸々のけがれをあらじと被え給い浄め給うと申す」。

上体を反らしながら杖を上げ、左手で下をとる。廻して地を突く。左足を左に踏み、杖を左廻しに2回転させ、180度右へ向

く。同じ動作をして180度左へ向きながら、右足を前に踏み杖を前下へ突出す。右足を右へ大きく踏み杖を肩に担う。左へ180度向き同じ動作をする。杖を上へ突上げる。正面に向きながら、右足をあげ杖を前に打込む。左・右と繰返す。右足を引き、杖を右に引下げ左膝を立てる。拜む。杖を前に下げ左肩に置く。肩を右に変え、反対動作で旧位置に戻る。右に向き、両膝を張り右手の杖を地に立てた姿勢。「ヤーツ」で立ち、正面に向き杖を前下に出す。後に向きながら杖を左肩に担って、前下に打つ。同じ動作で正面に向く。「エーイ」で上体を反らし、杖を廻転させ、左へ向きながら左足をあげる。膝の姿勢で杖を右へ突下げる。同じ動作を4回繰返す。杖をたぐって左右に別れ、2名ずつ向い合う。右手を前に出して杖を地に突き、左手は腰に張る。右の杖は両足を踏張り、腰をやや屈め杖を両手で下げる。左の杖は両足を前後に大きく踏張り、杖を右肩におく。左の杖を支えにして右の杖はトンボ返り、反対位置で立つ。同じ動作を繰返す。4名は杖の中に集めて突き上げる。左・右・左足で小さく跳躍しながら杖を突き出す。杖を左肩に引き、右肩にかえる。持換えて、右手で杖を立て左手を腰に張る。各隅をとって演技前の位置に戻る。

〔シンリキのヨミタテ〕

右後の杖「東西東西」

右前の杖「抑々時に当る年号は昭和〇年〇の〇月〇日。この日正日に当る日と選び定めて使い始める御神事の杖にて候。杖の由来は摩利支天の法にして大天狗小天狗四十四万八千の軍神三万八千の軍神を従え、大日本九州豊前の国尾前の山に鎮まります。この一流を加えて元祖須々岐の友繁と申す人より百手の良法を授かり、第一天地四方神の杖と名付け、杖両端に五色の房を付け東西南北と使い分けるなり」

右後の杖「そのいわれ聞きたくは後杖に任せ追って申出するに候」

左後の杖「まったまった」

右前の杖「抑々前朱雀後玄武左青竜右白虎、四神の地にささえ四方八方を強服し、杖両端に五色の房は天地を表し、天の五星

を象り地にあつて五方五色人体に五倫五常。かるが故に真正上と使う時は天下太平国家安全四海波静に民富裕と使い分ける也
被え給い浄め給うと申す」

〔ナカツエのヨミタテ〕

左後の杖「東西東西」

右前の杖「抑々中杖の由来、元祖鈴木友繁十一代の門人あざむの藏人明親、なお兵道の奥義をきわめんと逐夜ホウマンが満
に百夜參籠し丹精をこらす。奇なるかな一神来つて兵道の神秘を使う。重ねて智慧を工夫を示す。曰く汝国家安全真正上に祈
らんとふらす」

左後の杖「杖の由来はかたじけなくも大社の脇にくわしく候故、次手に委せ候」

右後の杖「まったまった」

右前の杖「抑々神の広前にて、杖三段に分つて天地人の三才を定め、三生を以つて天の三体を象り、四空に立つて地の四神を
表し、三九一を合し二十八宿を連ぬ。かるが故に真正上と使う時は、日月清く明らかに風雨時を以つて五穀豊かに災事起らず
四海静に民安し。諸難退治諸願成就如意満足と敬つて申す。被え給え浄め給うと申す」

沿革など

杖の起源を明らかにする文献はない。伝える所によれば、古くからあつた杖は廃絶し、明治初年に五所明神（臼坪）の杖を
伝習したという。五所明神の杖は神幸の際に子供が形式的に演ずるほど衰退が甚しいという。（この項は佐伯市の足田泉氏の
御教示による所が大である）

9 花棒（杖）

臼坪市東神野宮本

昔は熊野神社の旧暦7月7日の大祭に奉納していたが、大正の頃に新暦4月12日のフトリ権現、新暦10月10日（昔は旧暦10

月20日)の熊野神社の祭に奉納されるようになった。現在は4月12日のみに奉納されている。花棒の外に獅子舞・風流・神楽踊も奉納される。

演技者と装束

神旗(2名) 神旗は赤地と紺地各一本に熊野神社と白く染め抜いてある。持つのは杖をアガリ隠退前の人で、紋付・袴・黒足袋にゴメンを履く。昔、旧暦10月20日の祭には寒い上に重くて持つのを嫌がった。

祭典係長(1名) 昔は若者頭の役であった。花棒の総指揮をとる。

ヒョウシ(笛・鼓・銅鉦子・鉦・太鼓)

笛(4名) 袴を付け紙緒草履を履く。成人。

鼓(2名) 袴を付け紙緒草履を履く。成人。

銅鉦子(2名) 赤い3尺の布を四つ折にした鉢巻を締め、長袖の派手な着物に、赤・白・緑色の一丈の布をねじた襷を掛け、前後で結んで垂らす。銅鉦子の握りに5色の布房をつける。

鉦(10名以上) 銅鉦子に同じ。鉦の下げ緒と槌に5色の紙房をつける。

太鼓 大太鼓(2名)・小太鼓(2名) 太鼓担ぎ(2名)。大太鼓はガツソウ(毛頭)をかぶり、赤鉢巻を締め、長袖で尻までの丈の派手な上衣(ウマノリをあけてある)に襷を掛ける。白パッチに紙緒草履を履く。小太鼓は長襦袢・股袴で、鉢巻・襷はしない。大小太鼓は各一つで同じ台に並べて担ぐ。大小太鼓の撥には5色の紙房をつける。叩き手は交代で叩く。太鼓担ぎは成人。

ハナドリ(1名) 麻草をクチナシで染めたシャグマをかぶり、鼻高面をつけ、上衣にズボン様の袴を履く。成人。

獅子(2名) 獅子の前足・後足各一名。白パッチに草履を履く。成人。ハナドリ・獅子はいやしめられて養子の役であった。

杖(16) 上・下宮本地区から各8名。その中がさらに新・古参の各4名に分かれている。ガツソウをかぶり、赤の鉢巻を締め、半長袖で尻までの丈の揃いの上衣(ウマノリをあけてある)に黒い角帯を結び、帯締めをする。赤襷をかけ、赤股引をは

き、黒の手甲と脚絆をつけ、黒足袋に草鞋履き。

演技の概要

当日は祭典係長の指示で、午後1時頃（昔は12時）旧大庄屋前の「馬場」に集まる。祭典係長の合図で、「ヒヤートルル」ロロリ、ヒヤールトヒヤールヒヤールヤラリヤラ」の囃子を始め、2回繰返す。ついで2列縦隊に並んでミチガクを奏しながら神社に向う。行列の順序は神旗・祭典係長と役員・ヒヨウシ（鉦・銅鉦子・鼓・笛・小太鼓・大太鼓）・ハナドリ・獅子・花棒・風流・踊子である。杖は上・下宮本が交互に入り混って2列を作る。途中、熊野神社とフトリ権現の間で獅子と杖はトツピヨウシを、学校の手前でミチガクを奏樂に合せて踊る。鳥居の前では獅子はトリイズリ、杖はトツピヨウシを踊る。続いてミチガクに移り本殿を一周する。ミチガクの獅子舞と杖を踊る。拜殿の前に着くと、神旗は拜殿の屋根に立てかけ、拜殿に向って左側にヒヨウシ、右側に下宮本の杖が休む。正面の祭典係長が一握り（昔は味噌こしに一杯）の塩を撒いて場所を清める。シオフリという。上宮本の杖8名が拜殿に向って横隊を作り、膝を張り杖を立てて構える。（註）上・下宮本は一年交代で先をとるが、記述の便宜上、上宮本を先とする。拍子木を「カーチカーチカチカチ」と叩く。

先ず杖の古参者がイイタテを奏上する。「抑々、この杖と申するは、天照大神宮様天の岩戸に籠らせ給うその時、鞍馬山の僧正坊。叡山の次郎坊天高峯に集まってこの杖を始む。エイヤーの声を掛け、御武運長久・息災延命と護らせ給う。」

イイタテが終ると、ホンオガミを新・古参全員8名で踊る。次にオガミを古参4名で踊る。次に下宮本が交代してモウシタテを奏上する。

「所繁昌村繁昌、国家安全の今日の御神事。抑々、この杖と申するは天竺アマガイより相伝下りにつき上・下を使うなり。まった。房付き候ことは子細にて候。様子聞きたくばこの事を存じ候。」

モウシタテが終れば、オガミを新・古参全員8名、トンボガエリを古参4名で踊る。以下、サゲ・カタハズシ（上宮本の新参）・オオコカタゲ・カタハズシ（下宮本の新参）・オオコカタゲ・ギャクマワリ（上宮本の古参）・シホウズエ（下宮本の古参）・

ドウジ（上宮本の新參）を踊る。踊り終ると拜殿に向つて左に下宮本、右に上宮本の杖が拜殿から鳥居に向つて一列縦隊を作る。その間をヒヨウシがイニガク（オカエリともいう）を奏しながら通る。その後杖が全員でイニガクの杖を踊る。鳥居の所で解散する。

沿革など

杖の起源を明らかにする文献や伝承はともないで詳細は不明である。次に杖の修得状況についてのしきたりの概要を記す。5才位になるとまず鉦を打たせてもらえる。10才位で銅鉦子、2年経てば大太鼓、さらに2年で小太鼓、15才になってワケーモン組に入ると杖になる。杖が他部落に洩れるのを防ぐために、宮本地区内でも長男以外には杖を教えなかつた。祭礼の一か月ほど前から師匠の家か適当な家に集まって練習をする。10日前はウチアワセといつて、世話人の所へ夜間に全員が集まる。もし雨であれば昼お宮に集まって、ヒトワタリ杖を使って稽古のでき具合をみる。3日前にウチクミがある。世話人の所へ集合して総仕上げをする。昔は杖の練習は厳しく、便所に行つても屈めないほどで、杖を使うとビューツと風を切る鋭い音がした。ハヤシは新參があれば2か月位前から練習をした。

杖は新入りがあればアガリになるので、何才で杖に出なくなるかはきまつていない。杖がアガリになると、笛―拍子木―鼓―神旗―祭典長と役が変わる。

演技（杖）

ミチガク

ヒヨウシに合せて、右手で直立させた杖を小刻みに上下させる。足を揃えて立ち、左手は腰に張る。左手で杖の上を逆に持ち、杖を回すと同時に右足を上げる。膝を張つて左向きとなり、杖を前方へ構える。立つ。また、膝を張り左向きとなり、杖を前方へ構える。立つ。杖を天地に回しながら右に向き、左に向き、杖を右手に持つ。

トツピョウシ

構えの姿勢から左足を引く。杖を引き左手は腰に張る。右足で左内腿を蹴る。杖を前方へ出し、左足で右内腿を蹴る。同じ動作を交互に3回繰返す。構えの姿勢に戻る。右足を左足につける。杖は前後に水平に持つ。膝を張り、右手の杖を直立させ、右足を後方に引いて上半身をかけ、左足は前に伸ばす。左手は腿におく。左手で杖の右手下を持ち後に倒しながら、右足につけて出し、直立させる。左足を後へ引き、杖は右手(逆)下・左手(逆)上を持つ、頭上で杖を突き出し、頭を後方へきつと振る。杖を直立し、頭上にかえす。左手で引下げ、右手で突き出す。杖を直立させる。杖の右手下を左手で持つ。跳躍して右手で杖を突き下げる。左手を左膝におく。振返り杖を出す。

ホンオガミ(上の杖)

新・古参8名で、新参が両翼に並ぶ。膝を張り右手の杖を地に立て左手は膝におく。塩を撒く。拍子木がなると一斉に立つ。右足を開いて両足を踏張る。杖は右脇下に挟み前方に倒し、左手は腰に張る。「エーイ」で杖をあげ上体を反らす。左手で杖の下をとり、上下に持ちかえながら、左に90度廻る。杖の左を上、右手を腿に、膝を張る「エーイ」。右に逆の動作をする「エーイ」。「ヤーツ」で立ち、立姿勢に戻る。両端の新参が「東西東西」で、内側を向くようにそれぞれ左・右向きをして膝姿勢になる。古参は立姿勢のまま「この杖を始む……」とイイタテをする。「エイヤーの声を掛け」で、新参は立姿勢になる。イイタテが終れば、全員が右手を右上方に、左手は帯の高さに杖を伸ばす。左に90度廻りながら右手を前に出し、杖を前で2回廻し、右脇下に挟む。「エーイ」で両足を揃えて跳躍し、右膝を立て左膝をつき、杖を前に鋭くひねり出す。両足を揃えて立ち、右手を前上方に伸ばして杖を持ち、右足を後へ下げながら後下方へ杖をひねり出す。立ちながら左へ向く。後方へ大きく踏み、右手の背に杖をのせ、杖を回転させて正面に打込む。「ホー」「ヤーツ」で、右足・右手を上げて跳躍する。左に同じ動作をする「ホー」「ヤーツ」。正面に向きを変え、杖を右で半回転させ、頭を越して右前方へ横たえ、右膝を張り左足を前方へ伸ばし、右手を地へ下げる。杖を左肩に担い、右手を杖の下になるよう前でまげる。杖を握りかえながら左へ90度廻り、膝を張り右手を肩の高さに伸ばし、左手を腿におく。立ちながら杖を廻し、打込んだ反動で跳躍し、右へ180度廻り

屈む。右足を大きく右へ踏み出して膝を張り、右手を伸ばして杖を地に立てる。左足は伸ばして左手を腿におく。左へ180度廻って、ウチコミの姿勢をとる。立姿勢から膝姿勢へ戻る。

オガミ（上の杖）

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿に置く。「カーチカーチカチカチ」で立つ。杖を前後に水平に横たえ、左手を腰に張る。右・左・右で止まる。右足を踏出し、杖を両手に持ち左足を上げる。杖を地に横たえ、屈んだ姿勢でガッソウを両手ではね、両手を腰に張る。右・左・右と後退する。膝を張り両手を両膝に置く。「カーチカーチカチカチ」で立つ。左・右と前進する。左足を上げてガッソウを両手ではね、杖を取る。「ヤー」で左足を後方へ大きく引き、右膝を曲げる。杖は両手で持ち、左足に平行して後方へ引く。足を旧に戻す。「エイ」で跳躍して上で打ち合う。「エイ」で跳躍して下で打ち合う。上3回・下2回を繰返し打ち合う。左足を後方へ大きく引き、右膝を曲げた姿勢をとる。「マーシタ」で左足を前方へ押し、右足を曲げ、右手を伸して杖を直立させる。「マーシタ」で足を揃える。杖を廻しながら、「エイ」「エイ」「エイ」で右・左・右足を上げて跳躍し、「エイ」で右・左・右足を上げて跳躍してとびかい、旧位置に戻る。「エイ」「エイ」「エイ」で右・左・右足を上げて跳躍し、4名は一線上に横隊となる。足を開き、右手の杖を前方へ突き出し、左手は腰に張り、上体を15度前方へ倒す。膝姿勢をとる

オガミ（下の杖）

8名が一線上に横隊を作る。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿に置く。「カーチカーチカチカチ」で立つ。足を開き、上体を15度前方へ傾け、杖を前方へ突き出し、左手を腰に張る。「エイ」で徐々に杖を上げ、直立した時に左手で杖の下方を持つ。天地へ廻しながら右足を半歩出す。左に向いて杖を廻し、左足を踏む。右足を上げ、「エイ」で杖を左方へ構える。右へ反対動作をする。「ヤー」で足を開き、上体を前方へ傾けた姿勢に戻る。新参の左右両端の杖が「東西東西」の声をかけ、各々内側に向いて膝姿勢をとる。古参の中央の2名の中、右方の杖がイイタテをする。「マツタ」で両端の新参は膝姿勢から前傾姿勢へ変る。終ると「エイ」で跳躍し、左膝を地につけ右膝を立て、杖を右脇にかかえて前方へ突き出す。立って杖の

上方を左手で逆に持ち、右足を後方へ大きく下げ、杖を後方へ引く。足を戻し、「エイ」で左膝を曲げて杖を構える。立つ。左手を上へ上げ、右足を後方へ大きく下げ、杖を後方へ引く。足を戻し、左膝を曲げて杖を構える。立ちながら杖を廻し、左足を上げ右に向く。右膝を曲げ杖を構える。「エイ」とびかわって膝を曲げ、杖を構える。「ホー」で左方に向き、「ホー」で右方へ向き、「ヤー」で後方へ飛び、膝を張り杖を直立する。杖の上を持ち、跳躍して旧位置に戻る。跳躍して左膝を地につき、右膝を立て、杖を前方へ突き出す。杖を天地に2回廻しながら立つ。左方へ打込み膝を張って構える。杖を大地に2回廻しながら立つ。左方へ打込み膝を張って構える。「エイ」で右足を上げる。杖は上げた足の方へ高く突き上げる。膝を張り、左手の杖を前方へ出し、右手を下げ、頭を下げて拝む。立って杖を前方へ突き出し、左手は腰に張る。膝姿勢をとる。

トンボガエリ(下の杖)

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。左手は腰に張る。杖を両手で持ち後方へ引く。「エイ」で跳躍し、右上方で打合う。杖を廻して、「エイ」で跳躍し、左上方で打合う。カチミは左足と杖を後方へ引く。杖を背に負い、背を丸めてマケミの間へずり込む。マケミは両手の杖を水平に高く上げ、両足を左右に広く開く。カチミがずり込むと、一歩前にとび、杖を地につけ左肩を下にして、トンボガエリをする。両者は右膝を立て左足を後方へ引く。「エイ」で杖を打合う。トンボガエリをもう一度する。立って、跳躍して「エイ」で打合う。とびかわって、跳躍して「エイ」で打合う。とび下って、左足を後方に引き、右膝を立てて杖を構える。「マーシタ」で立ち、右手の杖を直立する。杖を天地に廻しながら、右足を上げてとび、左足を上げてとび、右足を上げてとび退る。向い合つて杖を構える同じ動作を繰返して旧位置に戻る。「エイ」「エイ」「エイ」と右・左・右で前方へ跳躍して、一線上に横隊となる。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。立って、右の脇下に杖を構え、左手を腰に張る。

サゲ(上の杖)

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。杖を前後に水平に

横たえ、左手を腰に張る。左・右で止まる。「マーシタ」で右方へ杖を斜めに立てる。跳躍して杖を右で打合い、左で打合う。とび下って、右膝を立て左膝を地につき、打合う。左手に杖をうけ「エイ」、右で打合う「エイ」。杖を左右に水平にして左の花をみる。また、杖を左手にうける「エイ」。前下に打込み、とびかわって、左で打ち右で打つ。おしまわって、左・右で打つ。とび下って構える。右足を大きく後方へ伸し、左膝を曲げて半身になり、両手の杖を直立させる。両足を半歩ずつ戻して膝姿勢をとる。

カタハズシ(上の杖)

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。杖を前後に水平に横たえ、左手を腰に張る。左・右で踏張り、杖を両手で水平に左右に横たえる。杖を後首にかけ、15度前へ傾ける。「マーシタ」で跳躍して右・左に打合う。カチミは右膝を立て左膝を地につけ、「エイ」と打つ。ウケミは右膝を立て左膝を地につけ杖を両手で水平に捧げて、「マイッタ」と受ける。跳躍して左で打合う。次にカチミ・ウケミが交代して打ち受ける。跳躍して左・右に打合う。おしまわり、跳躍して左・右(上)、左・右(下)、左・右(上)に打合う。おしまわる。「エイ」で跳躍して、「ヤーツ」で左・右に打合う。「マーシタ」でとび下って構える。後へ退り、立って杖を直立する。左に180度かわって、「エイ」で打込む。とびかわって左前に杖をホル(突き出す)。跳躍して2回ホル。跳躍して杖をかるう。「エイ」で打込み、「エイ」で立って打込む。「ヤーツ」で左右にとび退り、膝姿勢をとる。カチミは杖を左手に、ウケミは右手に直立させる。

オオコカタゲ(下の杖)

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。右手の杖を前後に水平に横たえ、左手は腰に張る。右手の杖を直立させ、右足を一步出し、左足を半歩斜めに出す。杖を後へ倒しながら向きかわり、右膝をまげ左足を大きく後方へ引いて打込む。杖を上で打ち、足をかえる。杖を返して2回上・下で打つ。両者背中を

合せ、杖を右足に付け、「エイ」で打込んで退る。廻って向き合う。「エイ」で杖を左手（逆）で上げ、跳躍して打つ。杖を返して上・下で打つ。とび退って、左足を後に大きく引き、右膝をまげ上半身をかけ、打込む。「ヤー」で引く。立って杖を右脇下に構える。杖を振廻しながら入れかわり、ふりかまへの姿勢に戻る。左手で杖の下を持ち、体を引きながら杖を身体につけ、杖を返して右足に付ける。杖を前に出し、左足に付け、ふりかえして膝姿勢をとる。

カタハズシ（下の杖）

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立ち、杖を前後に水平に横たえ、左手を腰に張る。杖を左手に持ちかえ、両足を半歩ずつ開く。上体を前に15度倒し、杖を後首にかける。「マーシタ」で前に打込む。右足を後方へ引き、左膝をまげて上半身を支える。杖を内側へ巻込み、「エイ」「エイ」「エイ」と。3回打合い、「エイ」と反対に打つ。杖を前方へ引き、左足で内股を蹴る。反対側に向き、右手を胸前にまげ左手は伸す。さらに反対側に向く。杖を前に打込み、右足を後方へ引き、左膝をまげて上半身を支える。両者共に杖を返し、左手で上（逆）右手で下を持ち、跳躍して打込む「エイ」。次に「エイ」「エイ」「ヤー」と逆に打込み、杖を返す。右足を後方へ引き、左膝をまげた姿勢で右手（逆）を返し、旧姿勢に戻る。6回打合い、旧姿勢に戻る。左手で杖を脇下に挟み、内側を杖を廻す。左足を前に出して立つ。杖を前に出す。右足を後方へ引き、左足を前に伸し、膝を張る。杖を垂直にして後方に引きながら円を描く。右手を上方に伸し、左手で引き、右脇下に挟む。立ちながら杖を後方へ倒す。左足を後方へ引き、右膝をまげ、杖を前に出す。頭を後方へはねると同時に杖をゆるする。杖を後方に廻しながら持ちかえる。右手の杖を前方で大きく廻し、膝姿勢に戻る。

オオコカタゲ（上の杖）

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。右手の杖を前後に水平に横たえる。杖を担ぎ、左・右と前進し、杖を右脇下に構える。入れかわる。カチミは一回転して、右膝を地につき左膝を立て、「エイ」で打込む。マケミは後向きで、右膝を地につき左膝を立て、両手の杖を水平に捧げる「マイッタ」。立って

「エイ」と左上で打合い、「エイ」と右上で打合い、「ヤー」と左下で打合う。右膝をまげ左足を前方へ大きく伸し、杖を廻しながら右脇に引く。立って、マケミは右膝をつき左膝を立てて、「エイ」で打込む。カチミは後向きで、右膝をつき左膝を立てて、両手の杖を水平に捧げて受ける「マイッタ」。立って向い合う。「エイ」と左上で打合い、「エイ」と右上で打合い、「ヤー」と左下で打合う。右足を後方へ引いて右膝を張り、左足を前方へ伸す。杖を廻しながら右腿にひきつけて直立させる。静かに膝姿勢に戻る。

「カーチカーチカチカチ」で立つ。右・左と前進して背中合せとなる。杖は両手で左右に水平に持つ。「マーシタ」で向い合う。「エイ」と右上で打ち、「エイ」と左上で打ち、「ヤー」と右下で打つ。カチミがマケミの杖を押廻して向い合う。「エイ」と左上で打ち、「エイ」と右上で打ち、「ヤー」と左下で打つ。右に向いて杖でホル。左に向いてホル。右上に杖を引きつけ、「エイ」と右上で打ち、「エイ」と左下で打つ。右膝を張り、左足を前へ大きく伸し、杖を廻しながら右腿につける。フリ杖をして一線上に横隊になる。

シホウズエ(下の杖)

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。右手の杖を前後に水平に横たえ、左手は腰に張る。「マーシタ」で杖の上に、「エイ」で打合う。膝を張って左向きに、「ヤー」で杖を構える。立つ。左手の杖を下げ、「エイ」で打合う。膝を張って右向きに、「ヤー」で構える。同じ動作を左・右各3回する。立って「エイ」で打合う。「ヤー」で両膝を曲げ、右手を頭上に左手を下にして、杖を左斜下に構える。カチミが立つ。「マーシタ」で左足を上げ、杖を上を廻し、「エイ」で打込む。マケミは後向きで、右膝を地につけ左膝を立て、両手の杖を水平に捧げて受ける。マケミが立つ。「マーシタ」で左足を上げて杖を上を廻し、「エイ」で打込む。カチミは後向きで、右膝を地につけて左膝を立て、両手の杖を水平に捧げて受ける。両者は跳躍して立つ。向い合せて、左上で打合い、右上で打合う。「ヤー」で両膝を張り、右手を上げ左手を下にして杖を左斜下に構える。「マーシタ」で左足を大きく後へ引き、「エイ」で打込む。

「ヤー」で両膝を張り、右手を上げ左手を下にして杖を左斜下に構える。「ヤー」で足を揃え、右手の杖を直立し、左手を腰に張る。

ドウジ（上の杖）

4隅をとり向い合う。膝を張り右手の杖を直立し、左手は腿におく。「カーチカーチカチカチ」で立つ。大きく右足を後方に引き、左足を伸す。杖は直立させる。「マーシタ」で両足を揃え、跳躍して、「エイ」と左で打合う。カチミが左に打込むとマケミは左方に直立させて受ける。跳躍して、「エイ」と右で打合う。カチミが打込むと、マケミは杖を頭上に水平に捧げて受ける。杖を廻して、「エイ」と上で打合い、「エイ」と上で打合う。「ヤー」と下で打合う。右足を大きく後方へ押し、左膝を曲げて半身になり、両手の杖を直立させる。「マーシタ」でマケミが打込み、カチミが受ける。「エイ」「エイ」「ヤー」で杖を廻しながら、上で2回、下で1回打合う。「マーシタ」で杖を天地に廻しながら、とびかわって旧位置に戻る。「エイ」と右足を上げて跳び、「エイ」と左足で跳び、「ヤー」と右足で跳び、4名が一線上に横隊となる。両足を開き、右手の杖を前方へ突き出し、左手は腰に張り、上体を15度前方へ倒す。膝姿勢をとる。

演技（獅子舞）

トツピョウシ

直立して獅子頭を頭上にかざし、右足を上げて右で噛み、左足を上げて左で噛む。2回繰返す。左へ廻して戻し、右足を大きく前へ踏み、左へ傾けて噛む。左足を大きく前へ踏み、右へ廻して戻し、右へ傾けて噛む。後へ左・右と後退して両足を揃え、頭を頭上にかざす。4回繰返す。

ミチガク

直立で右足を上げる。下すと同時に頭を少し右に傾け、噛みながらゆする。左足を上げる。下すと同時に頭を少し左に傾け、噛みながらゆする。膝をやや割り、頭を前向きに少しゆすりながら下げる。頭を左に廻し、右に傾け、ゆすりながら噛む（一）

の時左足を上げて内腿を蹴り、右足を上げて内腿を蹴る。②回繰返す。右足を後に下げ、頭を右に廻して正面で嘯む。直立して頭上にかざし、右足を上げて右で嘯み、左足を上げて左で嘯む。

トリイズリ

頭を左へ向けて屈んでいる。ハナトリが起すと前に出して嘯む。右・左へ各②回シラミオトシ（頭を小刻みに嘯みながらゆさぶり廻す）をする。左右へ頭を嘯みゆすりながら徐々に立つ。右足を前へ踏み、頭を右へかざして嘯み、左に同じ動作をする。各③回繰返す。鳥居の前で、頭上にかざして体を大きく右へ傾け左へ傾ける。驚いたように小刻みに後退し、小さく嘯む。左足から前進し、鳥居の左柱に来て、左から傾けて同じ動作をして下る。屈んで頭を左へ傾ける。ハナトリが起すと、右左へ傾けて小刻みに嘯みながら徐々に立つ。右足を前に踏み、頭を右へかざして嘯み、かぶりを振る。左に同じ動作をする。各③回繰返す。鳥居の前で、頭上にかざして、体を大きく右へ傾け左へ傾ける。驚いたように足を小刻みに後退し、小さく嘯む。左足から前進し、鳥居の右柱に来て、右膝を立て左膝をつく。右へ傾けて、首を鳥居で摺り、嘯む。③回繰返す。頭を正面に戻して立つ。頭上にかざして嘯む。右柱と同じ動作を左柱にする。退いて立ち、鳥居をくぐって突拍子に移る。